令和8年第3回定例会

9月9日開催

上村町長の行政報告

まず初めに、7月28日に発生した令和8年熊本地震および各地での大雨により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。

上島町では、熊本地震に対して愛媛県と連携しながら、チーム愛媛として人的支援に努めています。義援金についても日本赤十字社を通じて被災地に送金させていただきますので、10年前と同様、町民の皆さまの更なるご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

また、ペルーの土石流災害や国外で多発している自然災害において被災された皆さまにもお見舞いを申し上げ、1日も早い救助と復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

本日は、令和8年第3回定例会を招集いたしましたところ、全員の出席をいただき誠にありがとうございます。6月定例議会後の行政活動についての詳細は時間の関係上、上島町ホームページ内の町長活動報告に代えさせていただき、この場においては主な事項のみを報告させていただきます。

6月30日には、国土交通省が主催する国土審議会離島振興対策分科会に特別委員として出席。翌7月1日には、全国離島振興協議会による離島振興対策要望活動を実施しました。

主な要望内容は

①「有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」の早期改正・延長実現に関する緊急要望。

②離島航路の維持に関する重点要望。

③離島の水道事業の維持に関する特別要望。

④令和9年度離島振興の推進に関する要望。

であり、6班に分かれ関係衆参国会議員約300名を訪問し要望書を提出しました。

特に上島町にとって最も重要な、「離島航路の維持に関する重点要望」については、新たな施策内容も含まれているので、上島町議会にも資料を即日提供させていただきました。

7月2日には、岩城先田名後一般廃棄物最終処分場の埋め立て超過事案について、事実関係の検証、原因究明および再発防止策などを専門的かつ中立・公正な立場から調査・審議いただくため、第三者委員会を設置し、3名の委員に委嘱状を交付いたしました。

今後は、委員会における調査・審議結果を真摯に受け止め、適宜適切な公表を行うとともに、町民の皆さまへの信頼回復と再発防止に向けて取り組んでまいります。

7月7日には、愛媛県町村議長会全員協議会が上島町で開催され、県下全町の議長が上島町を視察されましたので、ご挨拶と案内をさせていただきました。

7月8日、松山で開催された道路整備促進期成同盟会愛媛地方協議会および愛媛県市町道整備促進期成同盟会合同定例総会へ出席。総会後には愛媛県知事、愛媛県議会に対し道路整備に関する諸課題の解決に向けた要望活動を行いました。

関連して8月6日には、山本順三参議院議員・長谷川淳二衆議院議員・井原巧衆議院議員御同行のもと、愛媛県内道路関係期成同盟会による東京での合同中央要望を実施しました。

7月10日と14日には、企業版ふるさと納税により、本町の地方創生への取組をご支援いただいた企業に対し、感謝状の贈呈および善行表彰を行いました。

鶴見サンマリン株式会社からは弓削商船高等専門学校の支援事業に1000万円、MXモバイリング株式会社からは本町の地方創生事業に100万円のご寄附をいただきましたので、この場をお借りして両社のご厚意に深く感謝申し上げます。

7月17日、愛媛県漁港漁場協会総会が開催され、上島町が漁業振興で協議を重ねている水産庁の新村防災漁村課長の講演があり、今後の動向として担当課に資料を提供しました。

7月18日には、松原海水浴場において海開きが行われ、本格的な海水浴シーズンを迎えました。また、翌日には「第29回ゆげシーサイドフェスティバル」が開催され、恒例となったさんまレースやウォータースライダーなどを通じて、多くの来場者が楽しまれました。

今後も、若者たちを中心とした、このようなイベントが継続され、地域のにぎわいにつながることを期待しています。

7月21日には、県市町連携推進本部会議に出席いたしました。この会議は、知事と県内20市町長が

一堂に会し、県と市町がそれぞれの強みを生かしながら、共通する地域課題の解決に向けて連携した取組を推進するものです。

今回の会議では、部活動の地域展開や災害対応物資の備蓄・供給体制の強化、「E:N BASE」を拠点とした県内市町の共創に向けた取組、「Velo-city 2027 Ehime」の開催に向けた取組などについて意見交換を行いました。

本町におきましても、県や他市町との連携を一層深めることで、地域課題の解決と住民サービスの向上につなげてまいります。

7月23日、愛媛県自転車新文化推進協議会総会において、自転車新文化の普及・拡大と交流人口の増大を目的に協議を行い、愛媛県の誘致により日本で初めて開催される国際会議「Velo-city 2027 Ehime」に向けたフォーラムも実施されました。

この国際会議は、世界の先進事例に触れる貴重な機会であるとともに、愛媛の魅力発信や交流人口の拡大につながることから、中村知事より、大会成功に向けた「オール愛媛」での取組について、市町への協力要請がありました。

7月27日の中村知事との意見交換会においても、知事から、自転車新文化の推進や来年開催される「Velo-city 2027 Ehime」に向けた取組について講話があり、台湾との交流から「サイクリングしまなみ」の開催へとつながった経緯や、自転車を通じた地域活性化への熱い思いが語られました。

知事の自転車施策に対する熱意と、「Velo-city 2027 Ehime」を成功させ、その意義を広く発信していこうとする強い思いを改めて感じました。

上島町では、「Velo-city 2027 Ehime」を、「世界に上島町を知っていただく絶好の機会」と捉え、明るい将来につなげるため、関係者との調整を進めています。

途中経過ですが、上島町は世界各国の参加者が県内の自転車施策やサイクリング環境を現地で視察する「テクニカルビジット」の対象となり、世界の自転車施策やまちづくりに携わる方々を本町に迎えることとなりました。

また、会期の前後に日本に滞在する海外参加者を上島町へ誘客する「エクスカーション」に向けたツアー造成など、この国際会議を一過性のものとしない施策として取り組んでいます。

この「Velo-city 2027 Ehime」は、自転車施策やまちづくりに携わる世界中からの参加者の方々に、本町を実際に訪れていただき、ゆめしま海道をはじめとするサイクリング環境や瀬戸内海の多島美で構成される上島町の魅力を世界に発信するとともに、将来に向けて海外からの誘客にもつなげる大きな機会であり、本町の将来を決定づける重要な分岐点と位置付けていますので、町民の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

その後の知事との意見交換では、愛媛県による離島航路への新たな支援に感謝申し上げるとともに、ライフラインとしての離島航路の重要性を訴え、さらなる支援をお願いしました。

7月30日には、町民の皆さまの声を広くお聞きし、今後の町政運営に活かしていくことを目的として、各区の代表である区長の皆さまとの懇談会を開催いたしました。

本会では、事前にいただいた各地域が抱える課題や町政に対するご意見・ご要望に文書で回答し、更なる意見交換を行いました。

8月1日、「かみじまふるさと夜市」に参加いたしました。本年も町内外から多くの方々が来場され、久しぶりに再会した家族や友人、若者同士が笑顔で語り合う姿が会場の随所で見られ、温かい交流の場となりました。

今や、この夜市を目的に町外からも訪れるお客様も多く、生名公営渡船も時刻表に関わりなく、27便を増便するピストン運行で対応しています。

当日は立石港や因島側にも、警備会社に依頼し警備員を配置していましたが、非番の公営渡船職員も自ら陸上での誘導を行ってくれており、臨機応変に全力で対応してくれた船員さんや関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。

8月6日、過疎対策関係予算・施策に関して、総務省の出口自治財政局長、櫻井財務調査課長などへ要望活動を行いました。

人口減少や少子高齢化が進む中にあっても、過疎地域が住民生活を支える社会基盤や公共施設の維持・更新、地域活性化などの取組を着実に進めるための重要な財源である過疎対策事業債について、必要額を確実に確保することを直接お伝えいたしました。

8月7日には、海事産業の未来を共創する全国市区町村長の会により、海事立国推進議員連盟会長でもある山本順三参議院議員並びに井原衆議院議員御同行のもと、酒井国土交通副大臣、足立海事局長、寺田国土交通審議官、西村自